Presidential Award Presentation

Presidential Award Presentation (II-PAL)

座長:坂本 喜三郎(静岡県立こども病院)

座長:安河内 聡(長野県立こども病院 循環器小児科)

Sat. Jul 8, 2017 8:30 AM - 9:20 AM ROOM 4 (Exhibition and Event Hall Room 4)

8:30 AM - 9:20 AM

[II-PAL-04]光緩衝断層法 (OCT) を用いた川崎病遠隔期冠動脈病変における Vasa Vasorumの検討

○垣本 信幸¹, 武内 崇¹, 樽谷 玲², 猪野 靖², 田中 篤², 久保 隆史², 末永 智浩¹, 立花 伸也¹, 洪田 昌一³, 赤坂 隆史², 鈴木 啓之¹ (1.和歌山県立医科大学 小児科, 2.和歌山県立医科大学 循環器内科, 3.紀南病院 小児科)

Keywords:川崎病, OCT, vasa vasorum

【背景・目的】近年、光緩衝断層法 (OCT) を用いた検討で、アテローム性動脈硬化の進行、不安定化に冠動脈外膜に存在する血管栄養血管である vasa vasorum(VV)の増生や、VVからの新生血管が重要な役割を担っていると報告されている。一方で、川崎病(KD)冠動脈病変 (CAL) の遠隔期に、VVに関して検討した報告は存在しない。今回我々は、OCTを用いて、CAL症例の遠隔期における VVの関与を検討した。【対象・方法】対象は、急性期に何れかの枝に CALを合併し、フォローアップ冠動脈造影 (CAG) 中に OCTを施行した21症例。遠隔期に CAG上、異常所見を認めない冠動脈枝を抽出し、急性期の CAGで CALを認め、その後退縮し CAG上正常化した冠動脈枝群 (regression群) と、急性期にも CALを認めなかった冠動脈枝群 (non CAL群) に分類した。OCT上、regression群で急性期に CALを認めた部位の VVの個数および冠動脈内膜厚を計測し、non CAL群の各枝の近位部の VVの個数および冠動脈内膜厚と比較検討を行った。【結果】KD発症から OCT施行までの経過期間の中央値は16年5か月。OCTを施行し得た冠動脈51枝中、遠隔期に CAGで CALを認めない枝は34枝。その中で regression群は16枝、non CAL群は18枝。VVの個数は regression群が non CAL群と比較して有意に多かった ($p=0.0235$)。また、内膜厚も regression群で有意に大きかった (中央値478 μ m vs 355 μ m, $p=0.0058$) が、non CAL群においても成人の正常上限とされる400 μ m以上の内膜肥厚を有する枝を7/18(39%)に認めた。【まとめ】CALの退縮、内膜肥厚に VVが関与していることが示唆された。また、急性期に CAG上 CALを認めない冠動脈においても、遠隔期に内膜肥厚が残存することがあり、長期の経過観察が重要である。